

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	89	160	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	5	0	ヘルパンギーナ	23	19
咽頭結膜熱	14	19	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	70	74
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	70	67	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	335	266	流行性角結膜炎 (はやり目)	14	7
水痘	114	102	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	50	45	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	12	13	マイコプラズマ肺炎	1	0
突発性発しん	51	43	クラミジア肺炎	0	0

**感染性胃腸炎**  
**水痘**  
**インフルエンザ**

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎は、報告数 335 件(前週報告数 266 件)と増加。  
地区別では、山鹿、菊池、天草に多く報告がみられる。  
年齢別では、10～14歳の47件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数 114 件(前週報告数 102 件)と増加。  
地区別では、人吉、宇城、菊池に報告が多くみられる。  
年齢別では、1歳の29件を最多に、主に7歳以下からの報告である。
- インフルエンザは、報告数 89 件(前週報告数 160 件)と減少。  
地区別では、天草、人吉、有明に多く報告がみられる。  
年齢別では、10～14歳の18件を最多に、幅広い年齢層からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性連鎖球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	13	1	9	22	117	28	18	6	18		1	24		13				1
山鹿保健所	2				34	2			2			6	*	*				
菊池保健所	5		1	13	41	15	4	1	9		2	7						
阿蘇保健所	1						1							*	*			
御船保健所					5							2	*	*				
八代保健所	4	4	2	11	27	4	10	1	5		3	4						
水俣保健所	2					6	2		2		7	3	*	*				
人吉保健所	8			3	20	28		1	4			6	*	*				
有明保健所	7			2	33	9	3	2	3		1	8						
宇城保健所	1		1	2	23	18	1	1	3		2	7						
天草保健所	46		1	17	35	3	12		5		7	3		1				
計	89	5	14	70	335	114	50	12	51	0	23	70	0	14	0	0	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
インフルエンザ	89		1		5	5	4	11	6	10	10	4	18	4	2	6	3				
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	5	5																			
咽頭結膜熱	14		2	3	3	3	1					1	1								
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	70		1		2	8	14	10	7	9	9	3	6		1						
感染性胃腸炎	335	5	21	33	33	40	28	23	18	18	15	22	47	4	28						
水痘	114	3	8	29	23	22	10	11	3	4			1								
手足口病	50		4	25	12	4	2	3													
伝染性紅斑	12			1	1		1	4	1		2	2									
突発性発しん	51		26	24	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	23	1	2	9	4	5	1						1								
流行性耳下腺炎	70		1	2	5	12	7	15	7	9	5	4	2	1							
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	14			1			1							1	3	2	1	5			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	1			1																	
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- 流行性耳下腺炎：山鹿
- 水痘：宇城・人吉

腸管出血性  
大腸菌感染症  
(O157)



今週は、4件(菊池3件、八代1件)もの腸管出血性大腸菌感染症(O157)の報告があり、第1週からの累積が8件(患者:5人、無症状病原体保有者:3人)になりました。これから、夏場にかけて増加することが予想されますので、注意が必要です。腸管出血性大腸菌は、強い感染力をもっており、食べ物についた少量の菌で感染します。また、タオルの共用などでも感染することがあります。しかし、潜伏期間が3～5日と長いこともあり原因がわからない場合が多くあります。また、この菌が産生するペロ毒素は、強い毒性があり、重症化した場合には、腎臓や脳などに障害が起きることもありますので、乳幼児や高齢者は特に注意が必要です。菌は、75℃で1分間加熱することで死滅します。生の食材と加熱後の食品は必ず別の調理器具で扱うなどの注意をしましょう。

